

【教科全体の状況】

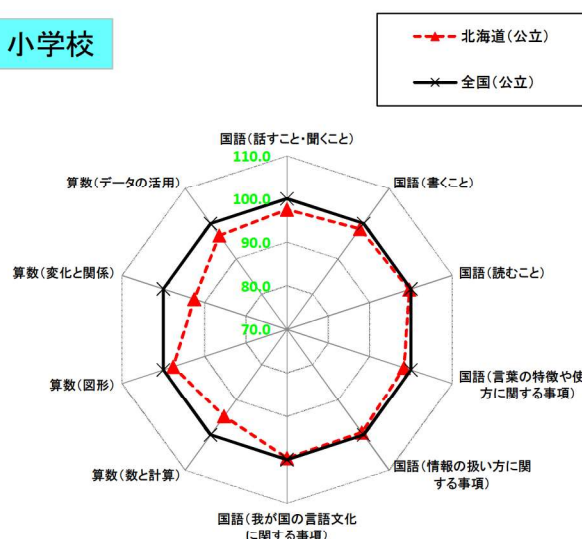
■島牧村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:9人）（中学校数:1校、生徒数:3人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科調査及び児童生徒質問調査のデータは掲載していない。

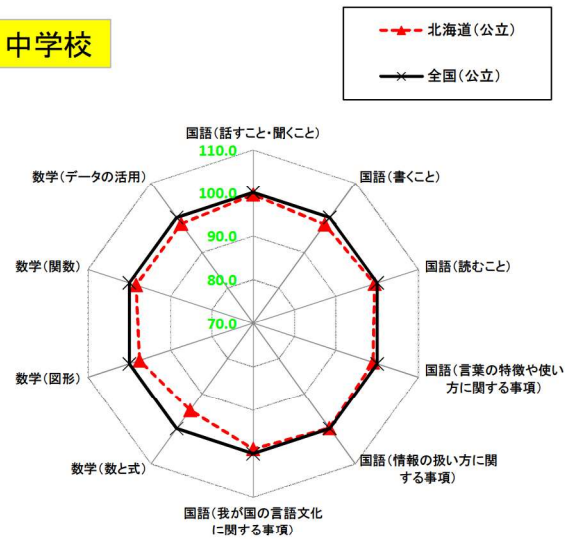
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

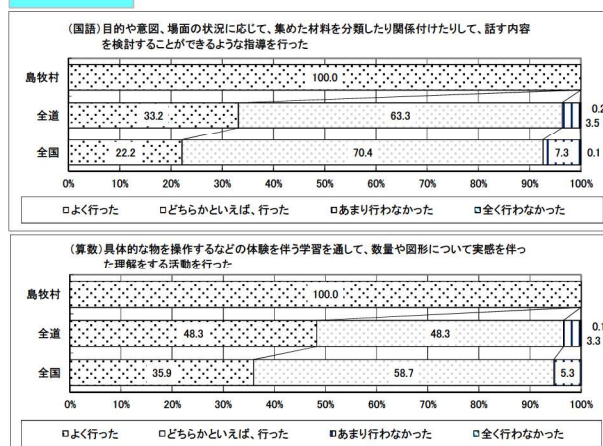


中学校

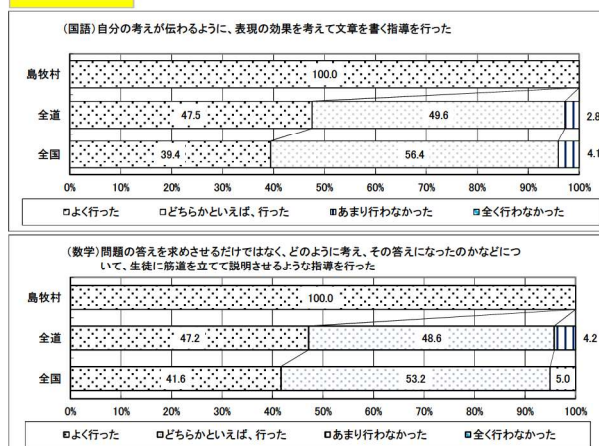


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。 算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

中学校
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。 数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【島牧村の学力向上策】

- ◎ 個に応じた指導の充実を図るとともに、小学校における朝・放課後学習、夏季・冬季休業期間の学習サポート、中学校における放課後サポート、夏季・冬季休業期間の学習会などの実施
- ◎ 小・中学校が連携し、算数・数学や外国語の学力向上に向けた乗り入れ指導、オンライン授業などの推進

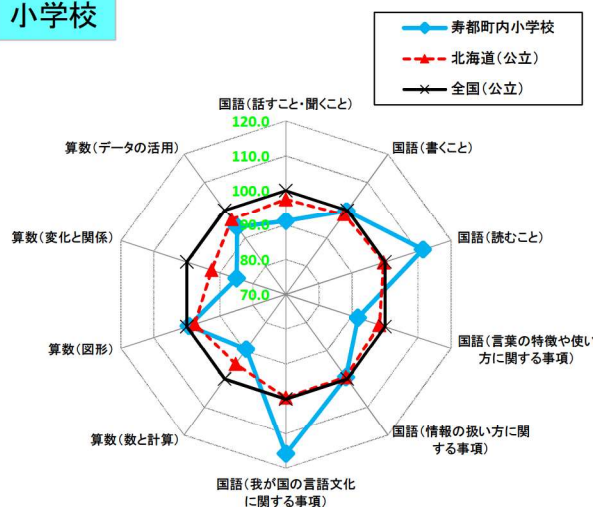
■寿都町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

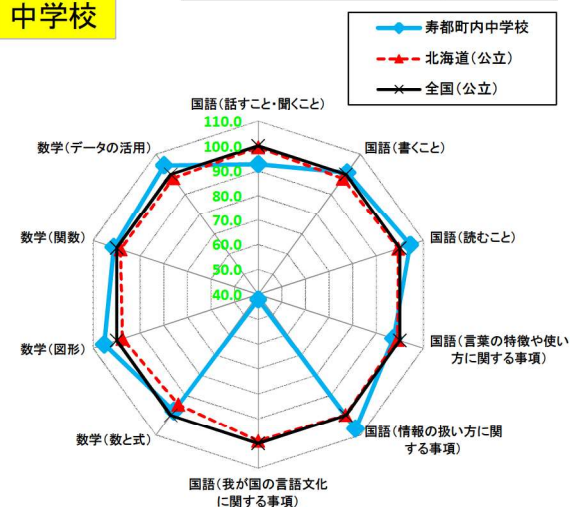
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率：全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	55
算数・数学	59	53

小学校

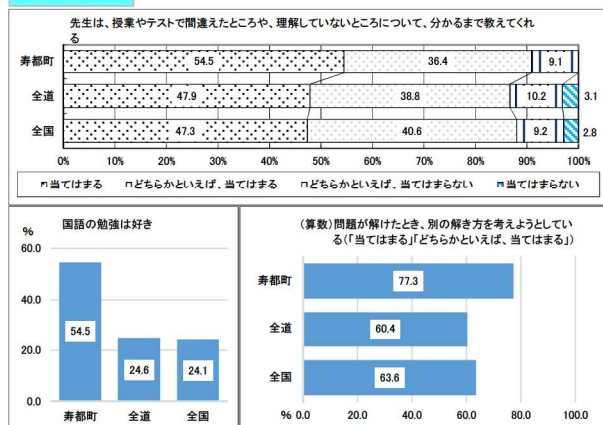


中学校

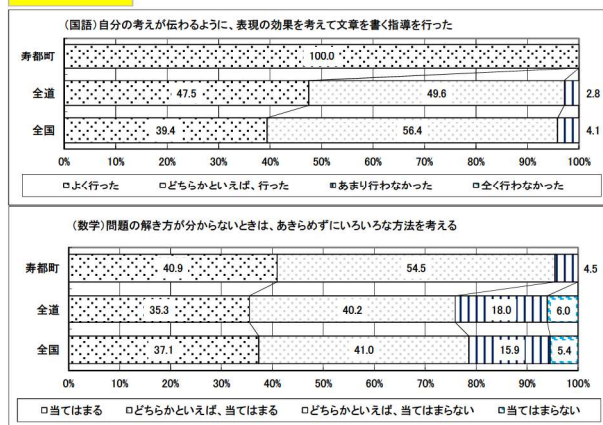


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域、「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、問題が解けたとき、別の解き方を考えようとする指導を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「図形」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったことにより、国語の「書くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の授業において、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法で考えさせる指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、数学の「図形」「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【寿都町の学力向上策】

- ◎ 学習支援員の配置による習熟度別少人数指導等の推進
- ◎ 家庭学習の手引や生活リズム調査による家庭学習習慣の定着を図る取組の推進
- ◎ CSIによる地域人材を活用した学習や地域全体が一丸となって児童生徒の成長を支える取組の推進
- ◎ 小中高連携推進委員会による乗り入れ指導を通じた授業の質の向上、各校の授業状況を共有し、スムーズな校種間移行に向けた体制の推進
- ◎ 1人1台端末等、ICT機器による授業での効果的な活用や地域資源を生かした体験活動の促進

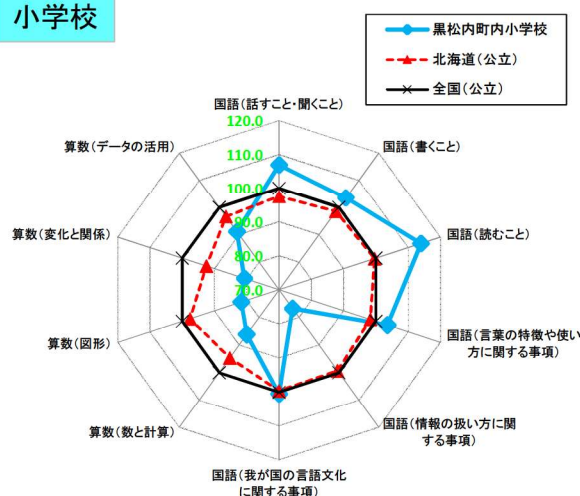
■黒松内町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：12人）（中学校数：2校、生徒数：23人）

【教科全体の状況】

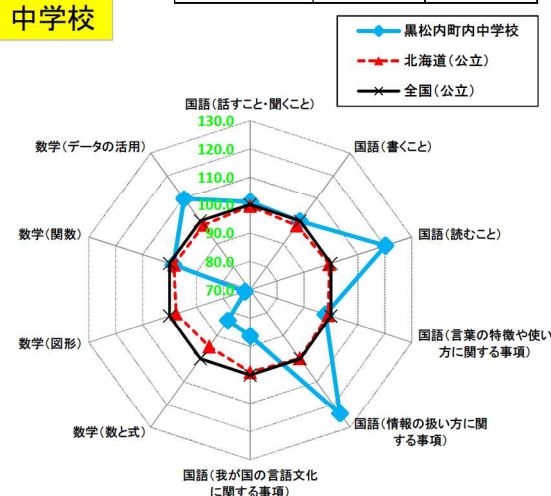
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	62
算数・数学	54	49

小学校

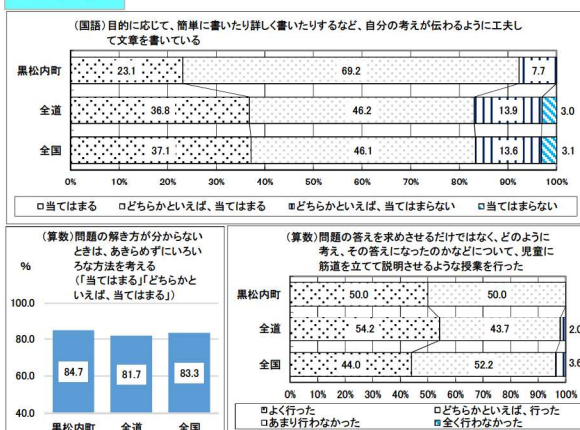


中学校

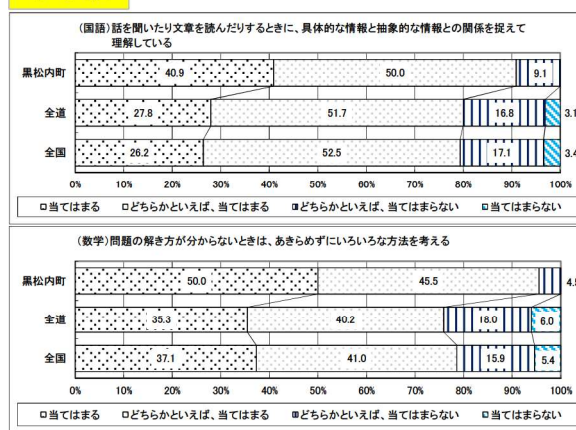


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書く活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、授業改善が図られ、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係をつ捉えて理解させる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えさせる指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【黒松内町の学力向上策】

- ◎ 学力の定着と学習意欲の向上のための町営塾の運営
- ◎ 国際交流協力員等による外国語活動や英会話教室の実施
- ◎ 児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業づくりの推進
- ◎ 1人1台端末への学習支援ソフト導入
- ◎ 児童生徒個々の実態に合わせた基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るため、学習支援員及び特別支援教育補助員の配置

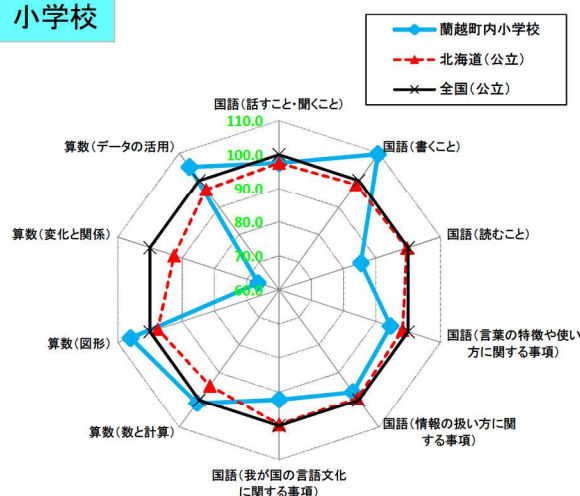
■蘭越町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:32人）（中学校数:1校、生徒数:34人）

【教科全体の状況】

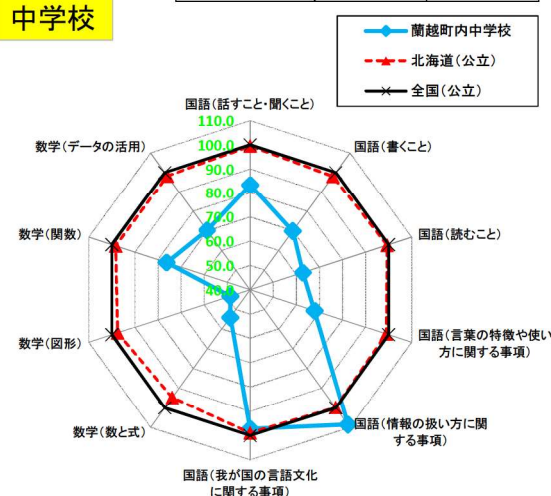
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	45
算数・数学	62	34

小学校

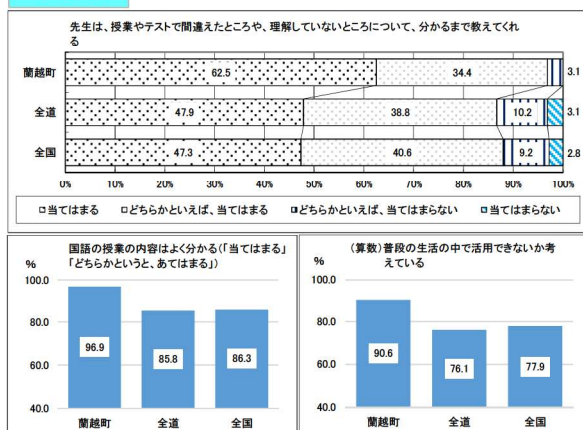


中学校

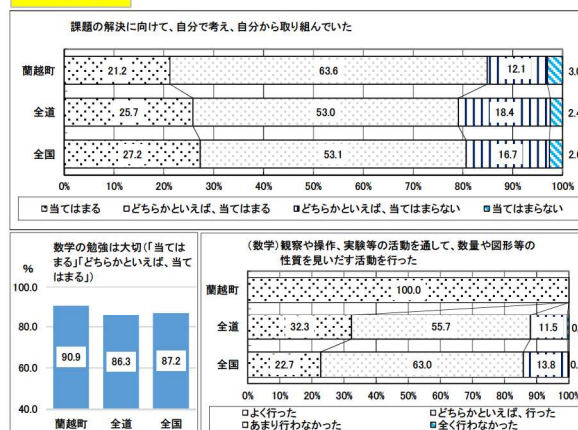


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、国語の授業の内容はよく分かることと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、普段の生活の中で活用できないか考えさせる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むように指導したことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「情報の扱い方に係る事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の勉強は大切と思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【蘭越町の学力向上策】

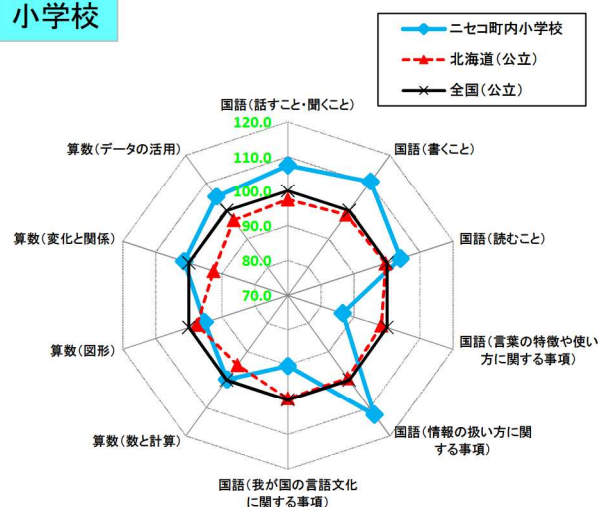
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善及び児童生徒の学習への関心や意欲を高める取組への支援
- ◎ 生徒の習熟の程度に応じた指導の強化ときめ細かな学習指導の充実
- ◎ 校長、教員に助言を行う学校教育アドバイザーの配置
- ◎ 小・中学校で学習規律を統一し中学校進学時においても学習に取り組みやすい環境の整備
- ◎ 家庭学習の習慣化の定着へ向けた取組の推進

■ニセコ町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：43人）（中学校数：1校、生徒数：40人）

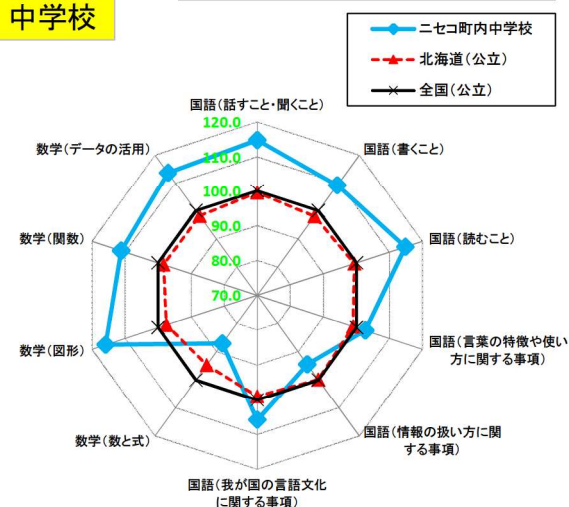
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



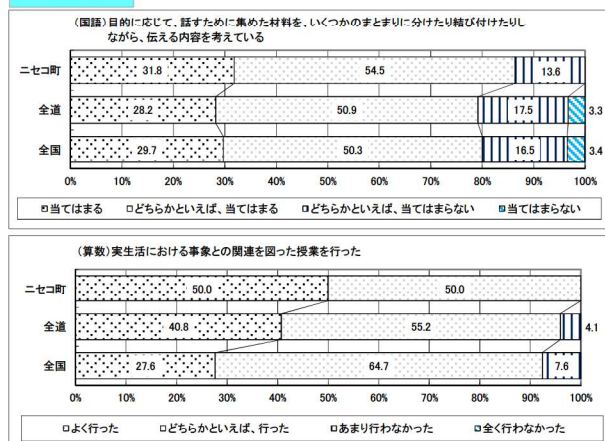
中学校



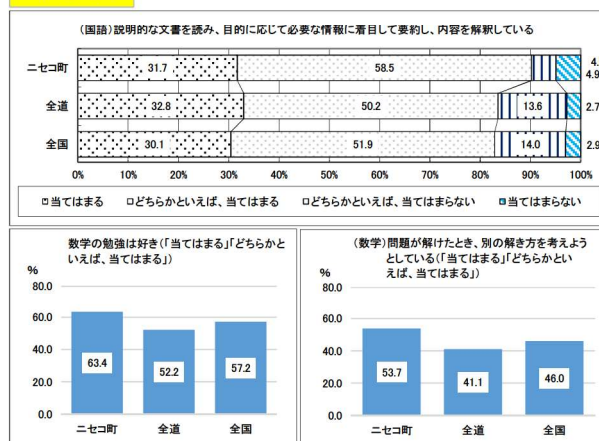
平均正答率	小学校	中学校
国語	68	63
算数・数学	64	55

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考える活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域、「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「変化と関係」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、説明的な文書を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、問題が解けたとき、別の解き方を考えようとする指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、数学は好きと肯定的に回答する生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「図形」「関数」「データの活用」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【ニセコ町の学力向上策】

- ◎ 幼小中高の連携強化や学習規律の統一など「ニセコスタイルの教育」の推進
- ◎ ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学習活動や、学習意欲、思考力、判断力、課題解決力を育成する教育の展開
- ◎ 外国人指導助手を活用した生きた英語による児童生徒のコミュニケーション能力と国際感覚の養成

【Webページ】



（R6.11掲載予定）

■真狩村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:12人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

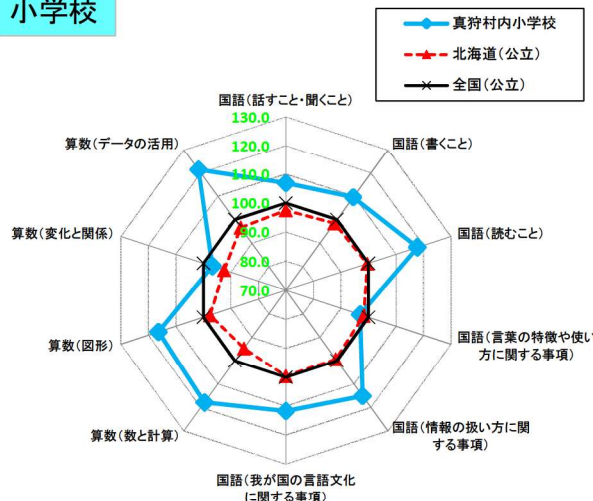
※生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、中学校の教科調査及び生徒質問調査のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

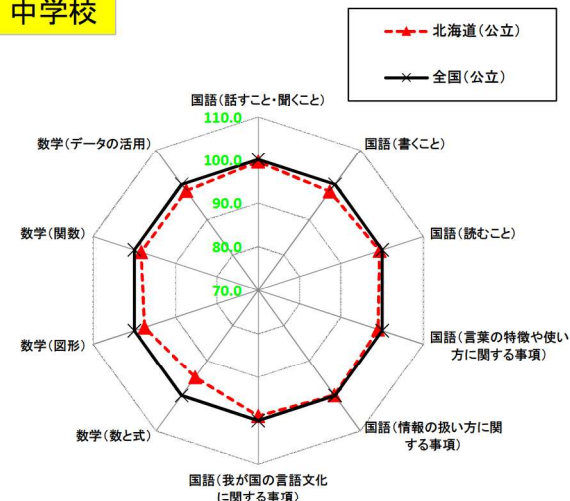
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	—
算数・数学	74	—

小学校

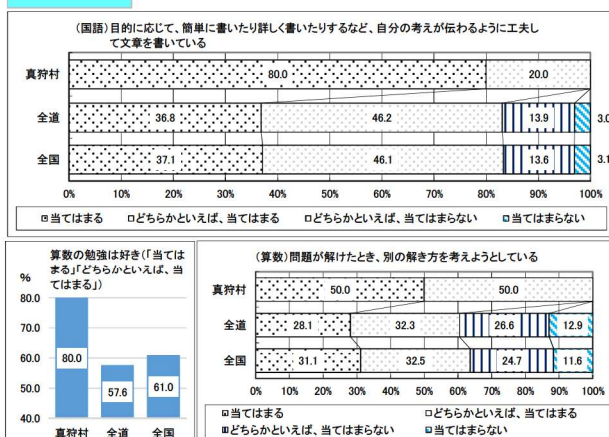


中学校

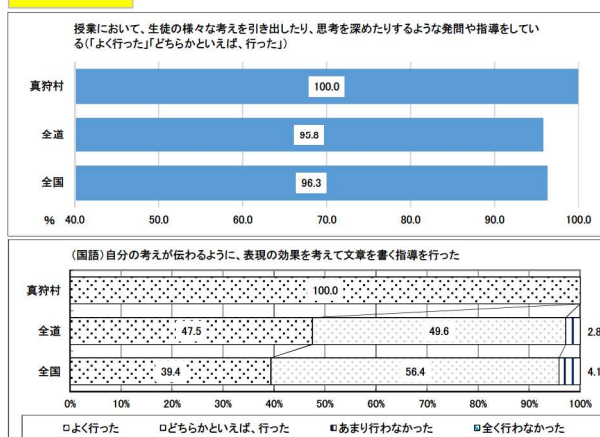


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書く活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域、「情報の扱い方に係る事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、問題が解けたとき、別の解き方を考えさせる指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、算数の勉強は好きと肯定的に回答する児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書く指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【真狩村の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末環境と従来の指導方法を組み合わせた、子どもを主体とする問題解決的な学びの充実
- ◎ 振り返りの重視による自分の学びと高まりを自覚できる授業の構築
- ◎ 豊かな読書経験を生む環境整備による読解力を育む読書活動の推進

【Webページ】



（R.11掲載予定）

■留寿都村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:16人）

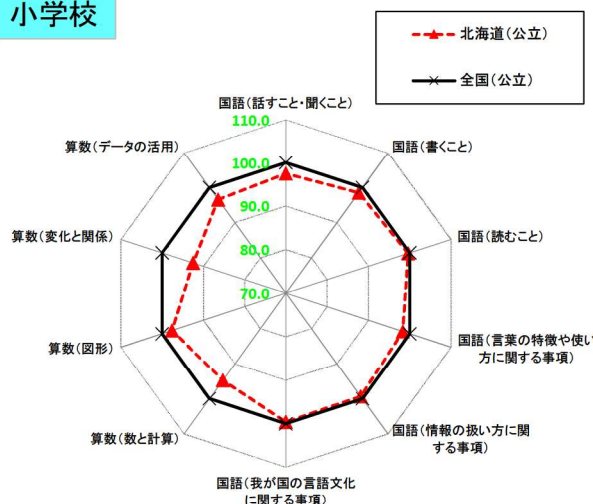
※児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小学校の教科調査及び児童質問調査のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

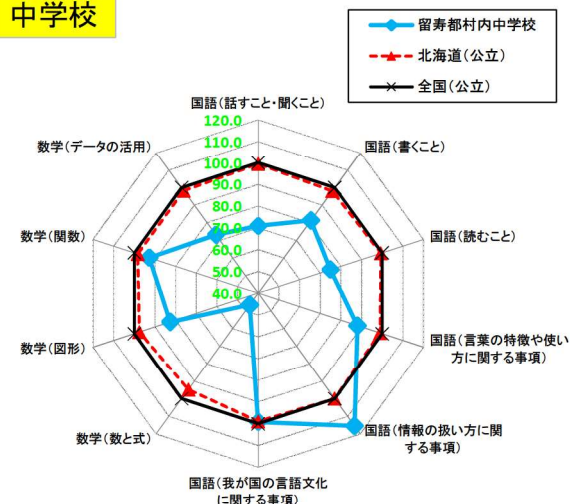
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	—	50
算数・数学	—	38

小学校

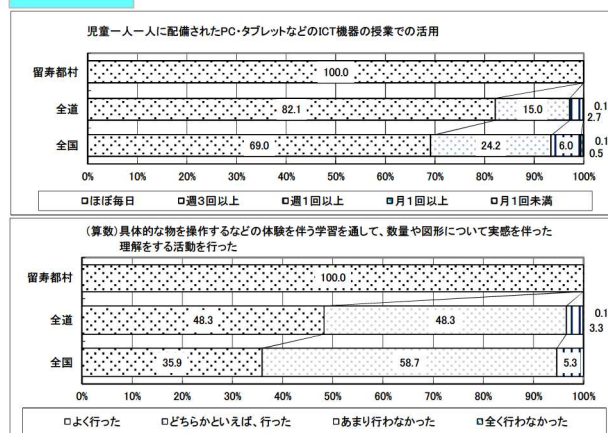


中学校

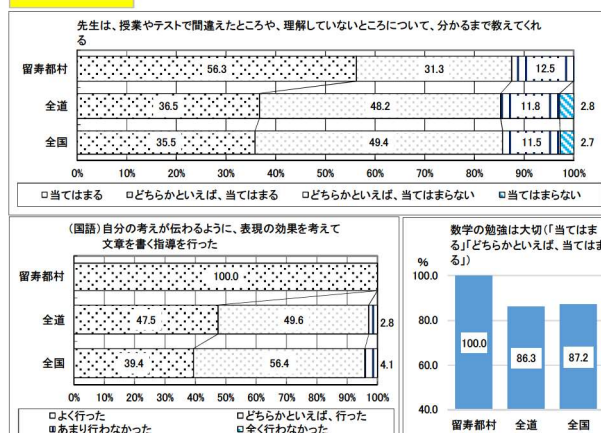


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られたと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

中学校
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書く指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、数学の勉強は大切と肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【留寿都村の学力向上策】

- ◎ 「村内に学習塾がない」というハンディキャップの解消に向けた大手学習塾との連携による「オンライン授業」の提供
- ◎ 放課後学習支援事業「まなびサポート」の利用登録者を対象に北海道学力コンクール受験費用の補助
- ◎ 学びの充実と確かな学力の一層の定着に向けた家庭学習におけるデジタルドリルの活用の促進

【Webページ】



（R6.11掲載予定）

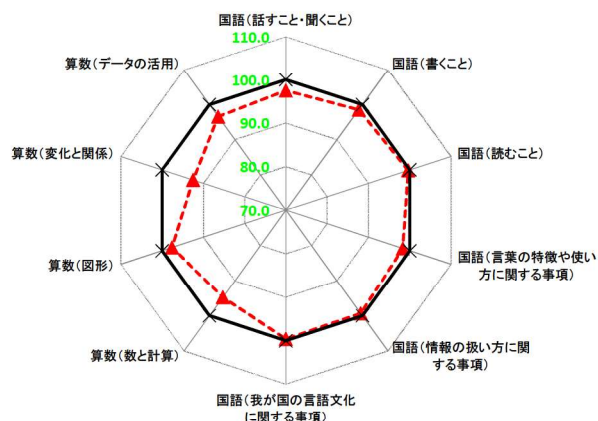
■喜茂別町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

※児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小学校の教科調査及び児童質問調査のデータは掲載していない。

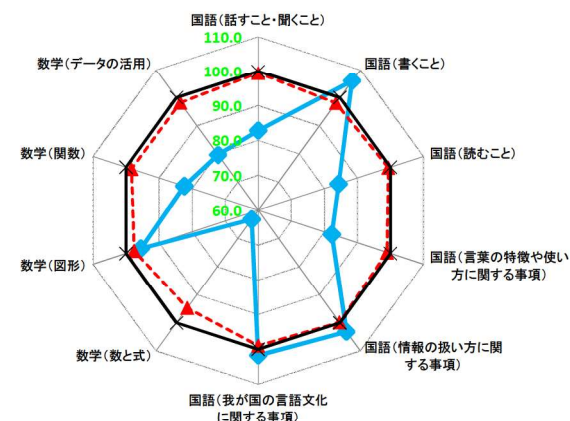
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

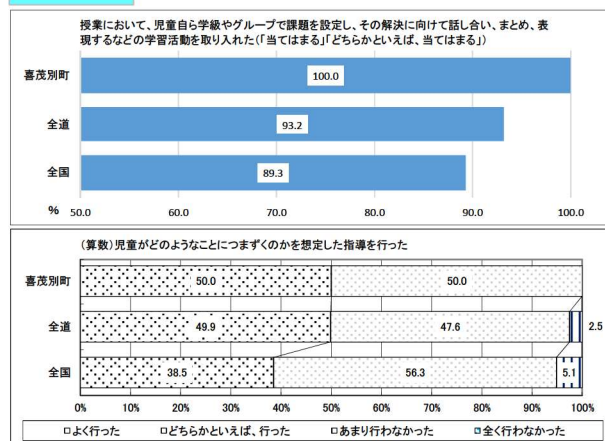


中学校

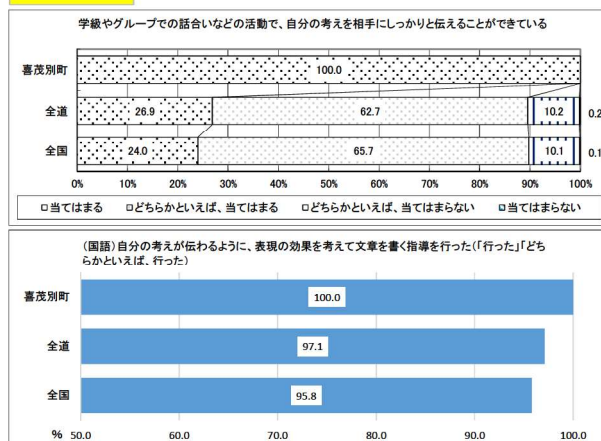


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業改善が図られたと考えられる。
算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

中学校
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができるよう指導したことにより、授業改善が図られたと考えられる。
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書く指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【喜茂別町の学力向上策】

- ◎ 確かな学力の育成に向けたICT機器やAIソフトの効果的な活用による「分かる喜びのある授業」づくりの推進
- ◎ 小中連携による義務教育9年間を見通した一貫性、連続性のある指導の充実
- ◎ 理科専科教員による乗り入れ指導の実施

【Webページ】



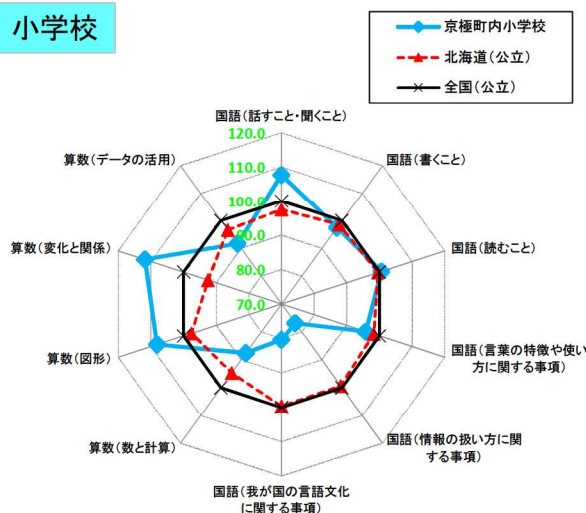
■京極町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：15人）（中学校数：1校、生徒数：22人）

【教科全体の状況】

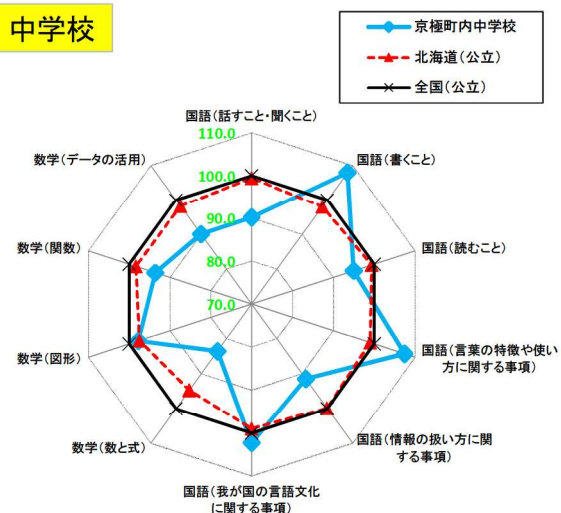
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	57
算数・数学	62	47

小学校

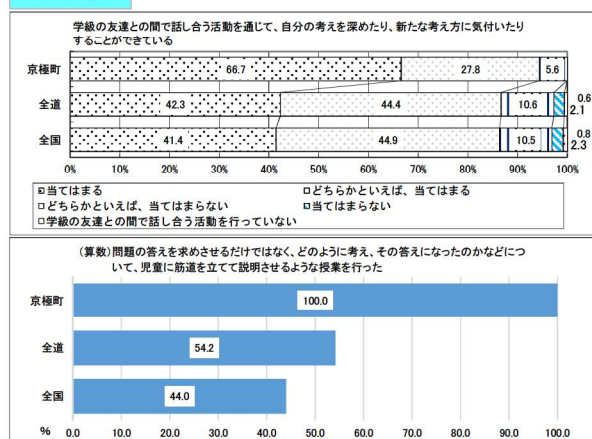


中学校

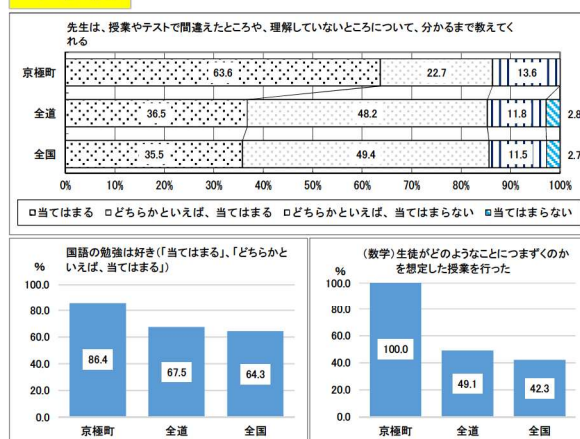


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させる活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「図形」「変化と関係」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、国語の勉強は好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した授業を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、数学の「図形」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

【京極町の学力向上策】

- ◎ 「京極STANDARD」に基づき、小中連携して取り組む課題解決型授業の充実による義務教育9年間の学びの連続性の確保
- ◎ 加配教員・非常勤講師・特別支援教育支援員を配置し、児童生徒の教育的ニーズに配慮した学習活動の展開
- ◎ 基礎学力の確実な定着に向けた1人1台端末やデジタル教材を活用した授業の活性化と深化

【Webページ】



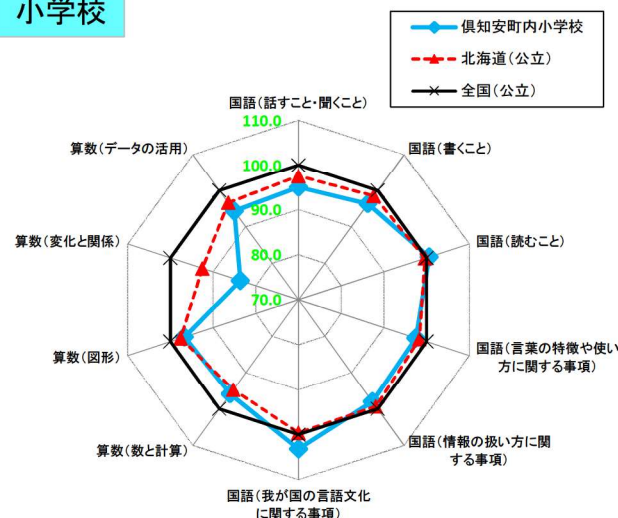
■ 倶知安町内の状況及び学力向上策（小学校数：5校、児童数：135人）（中学校数：1校、生徒数：121人）

【教科全体の状況】

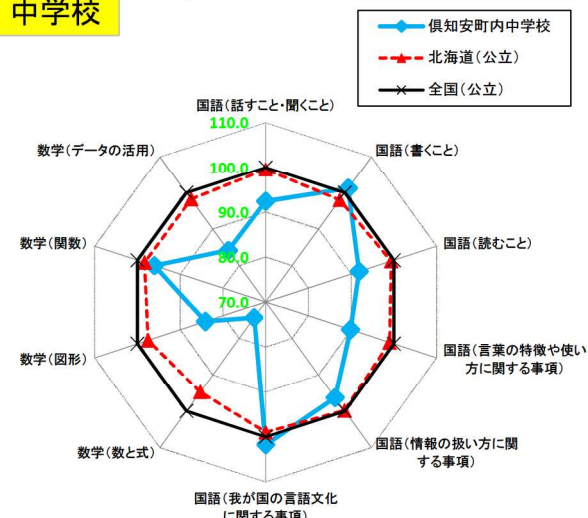
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	55
算数・数学	60	44

小学校

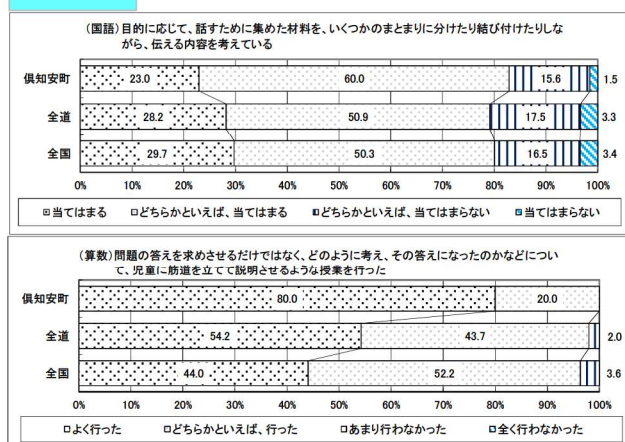


中学校

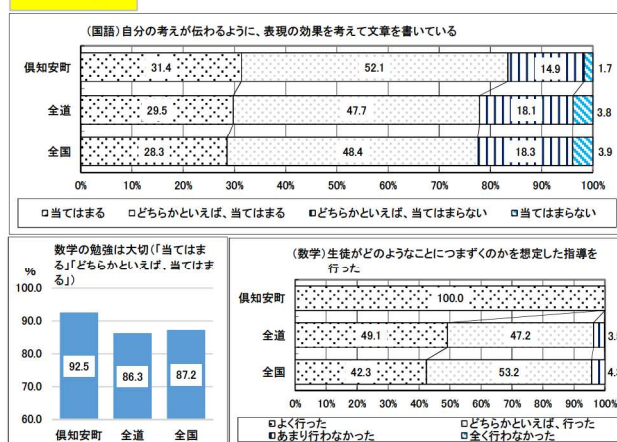


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えさせる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域、「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「数と計算」で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考え文章を書かせる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」の領域、「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の勉強は大切と肯定的な回答をした生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【倶知安町の学力向上策】

- ◎ 「学校力向上に関する総合実践事業」による学校間連携の推進
- ◎ 「倶知安プラン」に基づいた学習規律・授業展開を統一する取組の推進

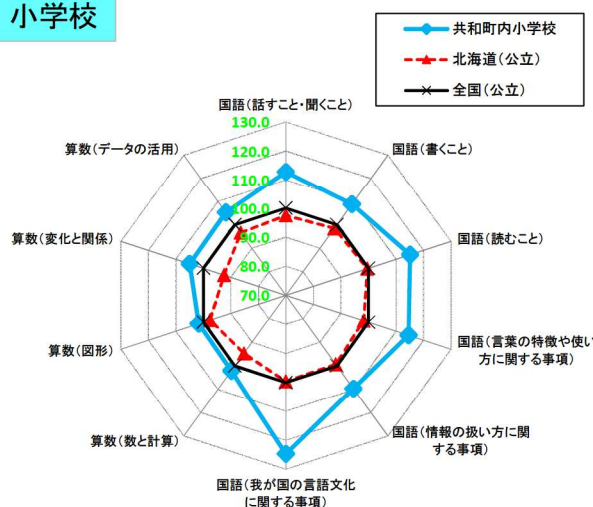
■共和町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:43人）（中学校数:1校、生徒数:44人）

【教科全体の状況】

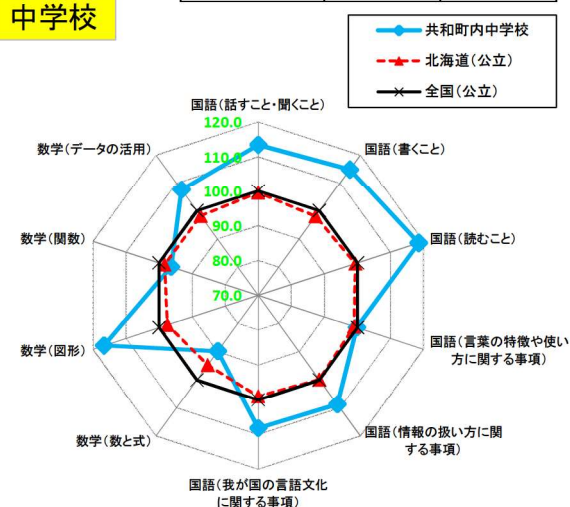
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	64
算数・数学	66	53

小学校

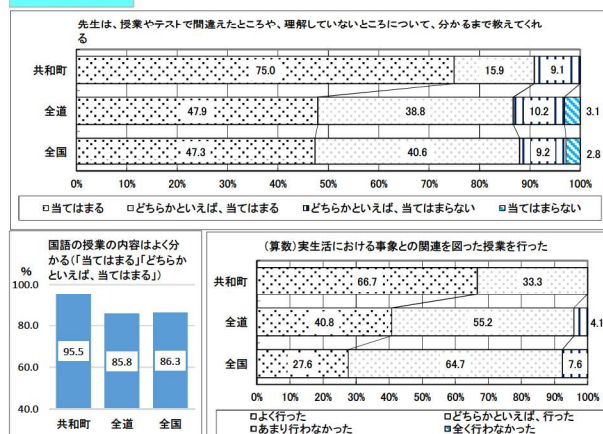


中学校

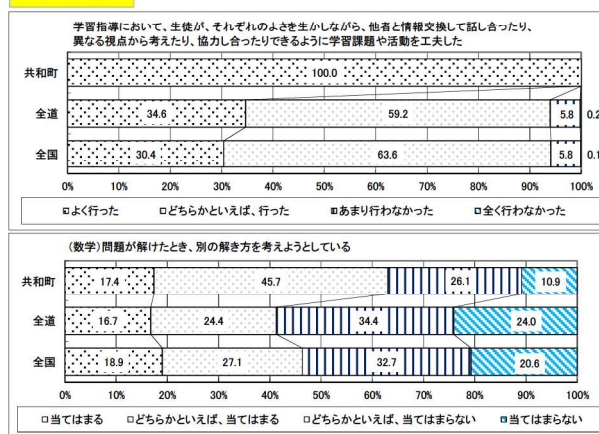


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域、「情報の扱い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、問題が解けたとき、別の解き方を考えようとする指導を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【共和町の学力向上策】

- ◎ 特別支援教育支援員及び外国語指導助手の配置による指導体制の充実
- ◎ 各種検定試験に係る受検料の全額助成
- ◎ ICTを活用した基礎学力の定着・向上に向けた取組の推進
- ◎ 指導方法工夫改善加配事業による授業の改善

【Webページ】



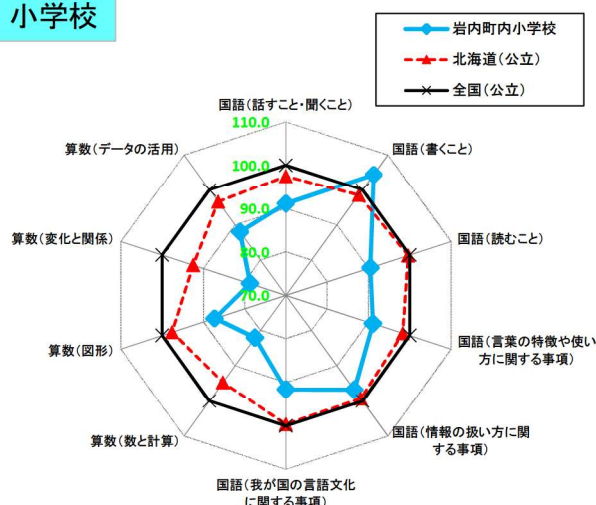
■岩内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:63人）（中学校数:2校、生徒数:60人）

【教科全体の状況】

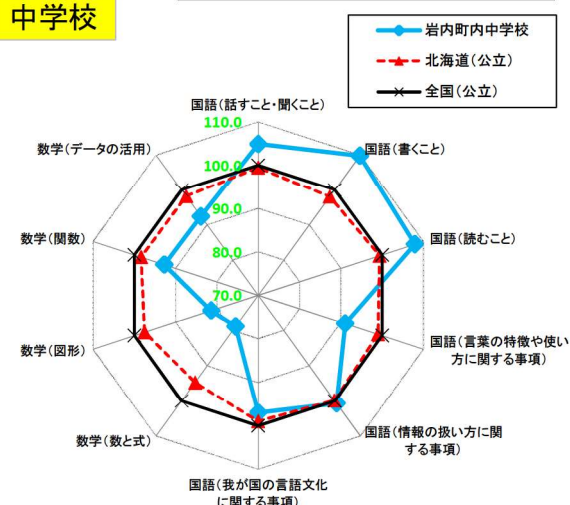
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	59
算数・数学	54	46

小学校

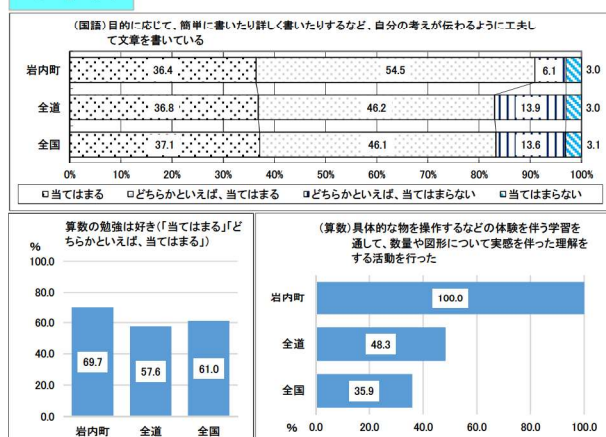


中学校

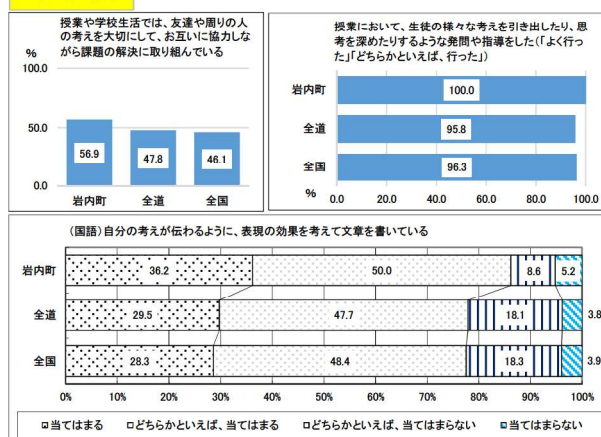


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書く活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の勉強は好きと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、授業改善が図られ、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えながら文章を書く活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域、「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩内町の学力向上策】

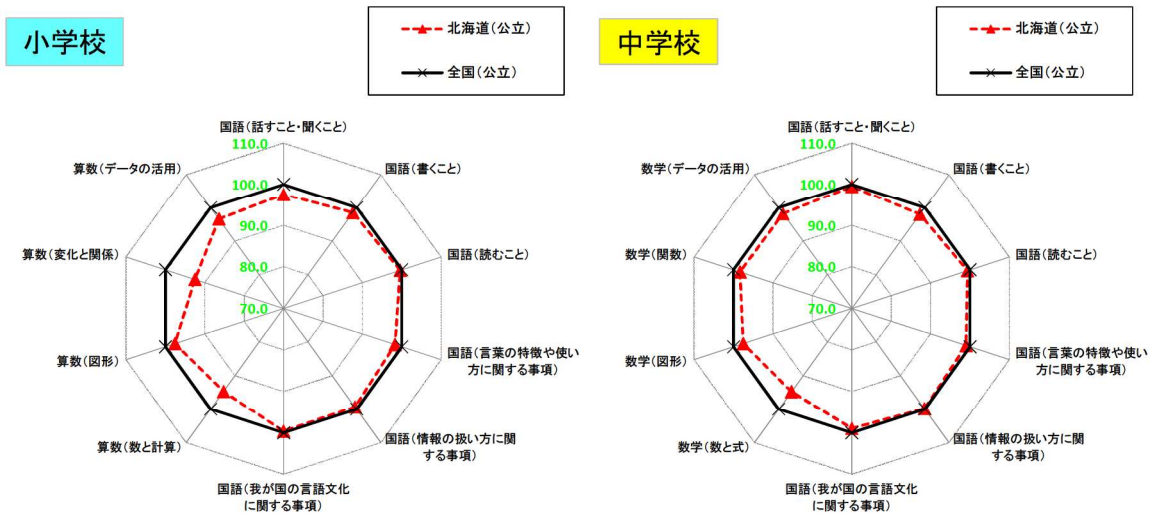
- ◎ 岩内町学力向上プランを活用した授業観の転換、小中一貫教育の推進
- ◎ 複数教員の配置による習熟度別少人数指導の実施
- ◎ 基礎学力の定着、向上を図るための学習指導員の配置
- ◎ ICTを効果的に活用した授業の実践

■泊村内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：4人）（中学校数：1校、生徒数：9人）

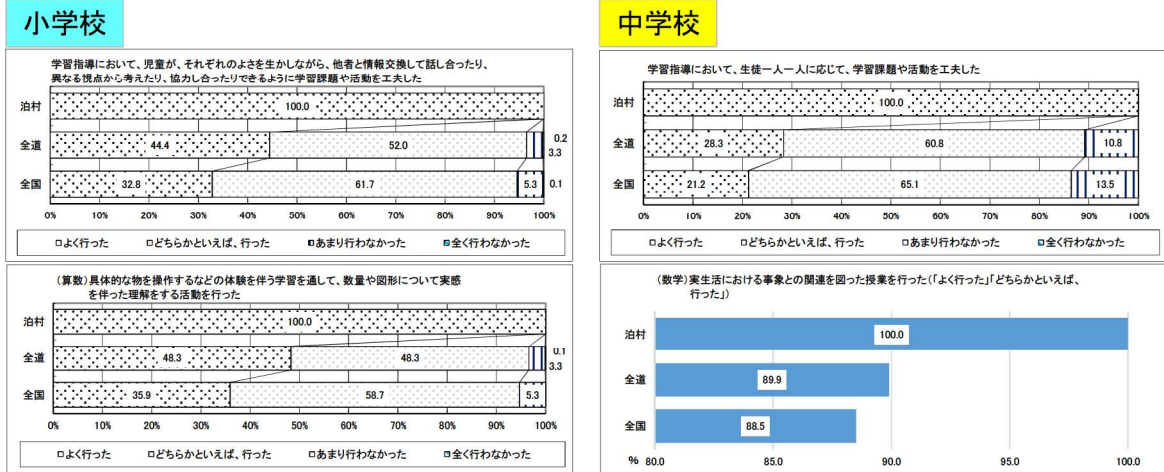
※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科調査及び児童生徒質問調査のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問調査の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られたと考えられる。 算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。	学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られたと考えられる。 数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【泊村の学力向上策】

- ◎ 神恵内村立神恵内小学校・中学校との学校間連携による学習機会の拡充
- ◎ 小・中学校教員の乗り入れ指導(国語・算数・数学)を通じた指導方法の研究と共有
- ◎ ICTを活用した中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業の推進
- ◎ 長期休業中の学習会の設定と学習内容の工夫・改善
- ◎ 学ぶ意欲の育成を目指し、小・中学校で統一した義務教育9年間を見通した学習規律の展開

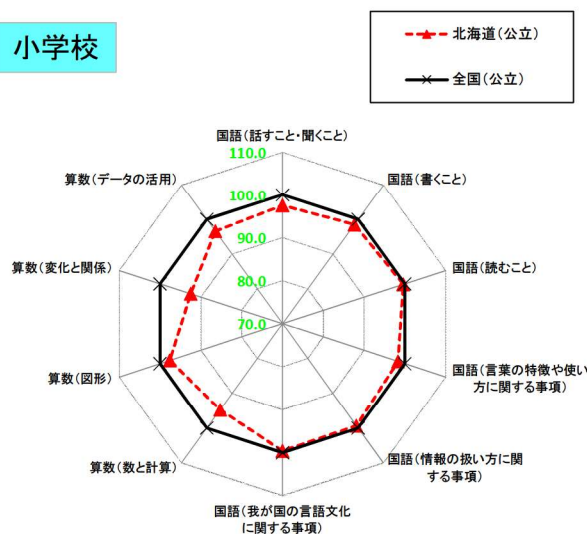
■神恵内村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:3人）（中学校数:1校、生徒数:1人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科調査及び児童生徒質問調査のデータは掲載していない。

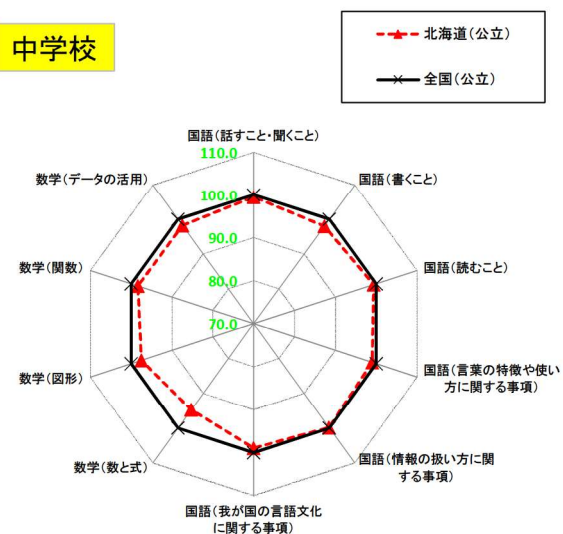
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

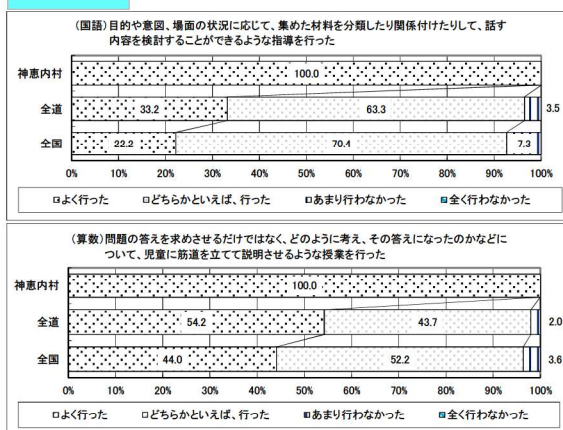


中学校

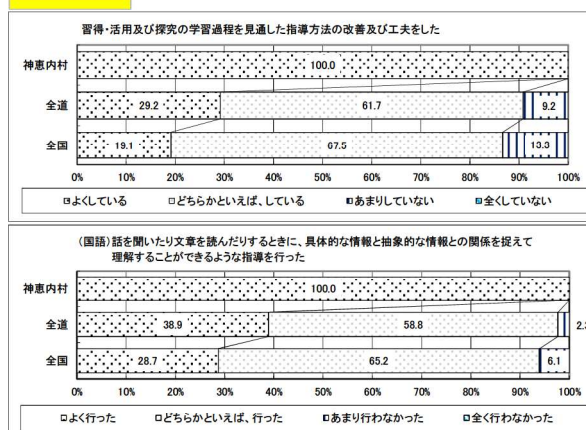


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させる指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

中学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【神恵内村の学力向上策】

- ◎ 泊村立泊小学校・中学校との学校間連携による学習機会の拡充
- ◎ 小中連携により、義務教育9年間を見通した一貫教育の体制づくりの推進
- ◎ 教育の質の向上を実現するためのICT教育の充実及びタブレット持ち帰り（デジタルドリル）による家庭学習の定着の推進
- ◎ 特別支援教育体制を充実するなど、児童生徒に対するきめ細かな教育・指導体制の整備

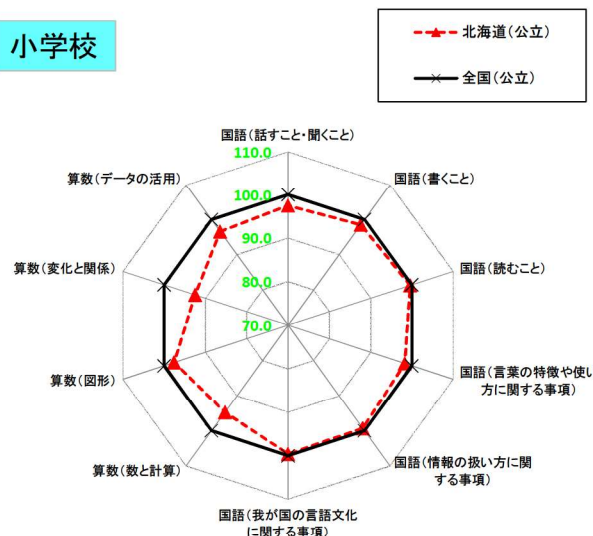
■積丹町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:10人）

※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科調査及び児童生徒質問調査のデータは掲載していない。

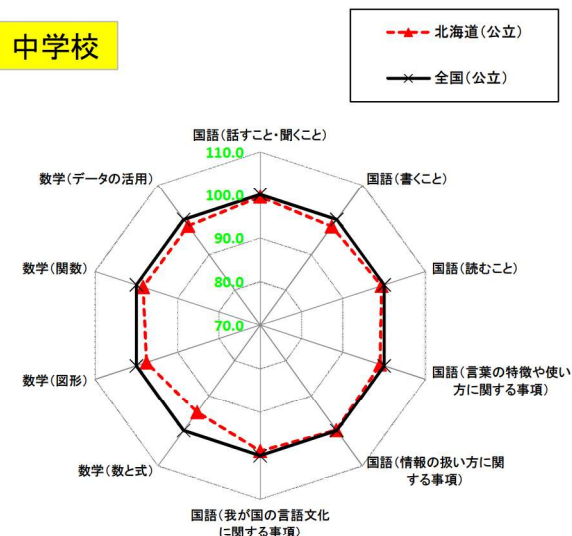
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

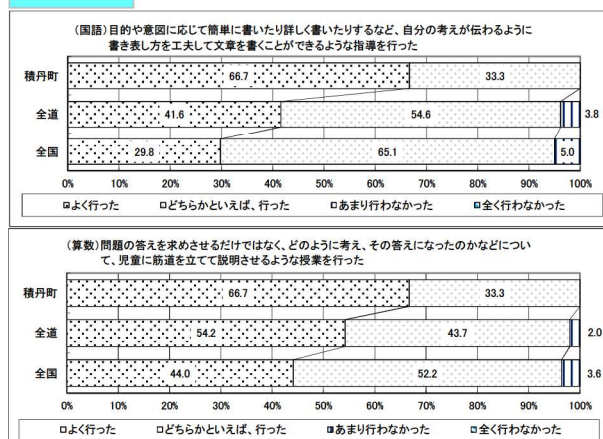


中学校

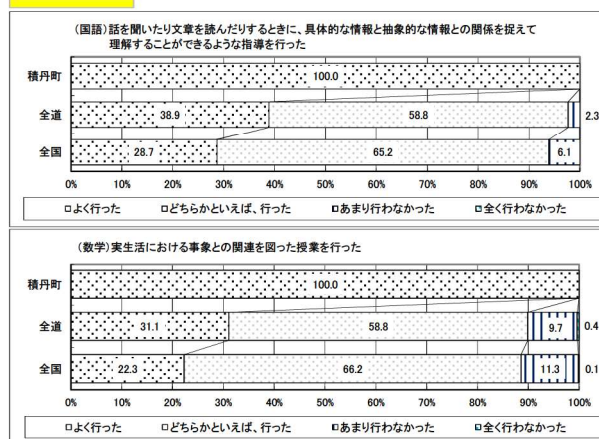


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

中学校

国語の授業において、話を聞いた文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【積丹町の学力向上策】

- ◎ 中学生を対象とした放課後学習を実施するとともに、オンライン形式のB&Gサポートゼミナールの実施を計画するなど、個別の生徒に特化した指導による学習習慣の定着と学力の向上に向けた取組の推進
- ◎ 教育支援を必要とする児童生徒の指導の充実を図るため教育支援員を配置し、きめ細かな指導の継続

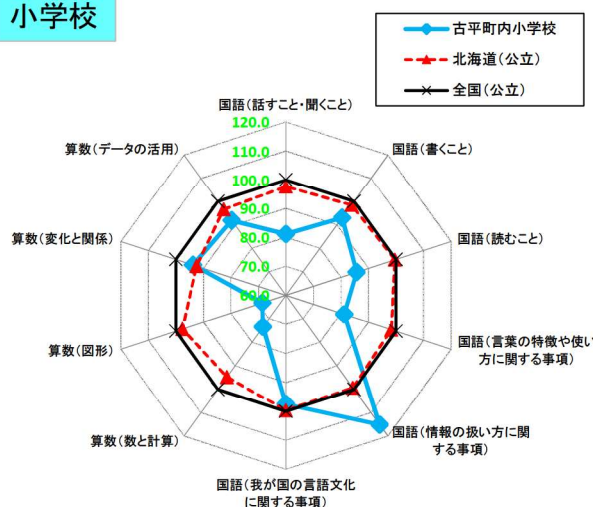
■古平町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:11人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

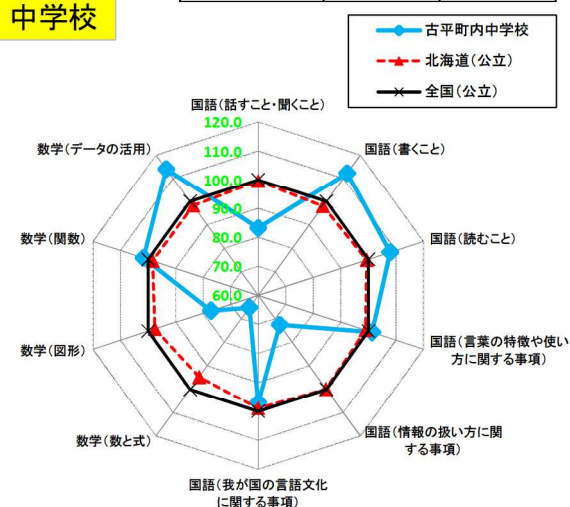
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	56
算数・数学	51	48

小学校

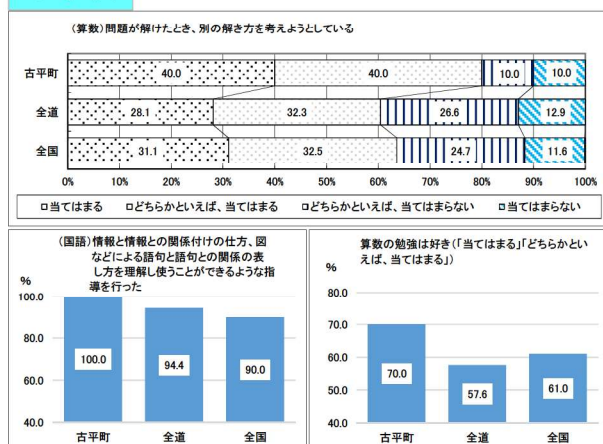


中学校

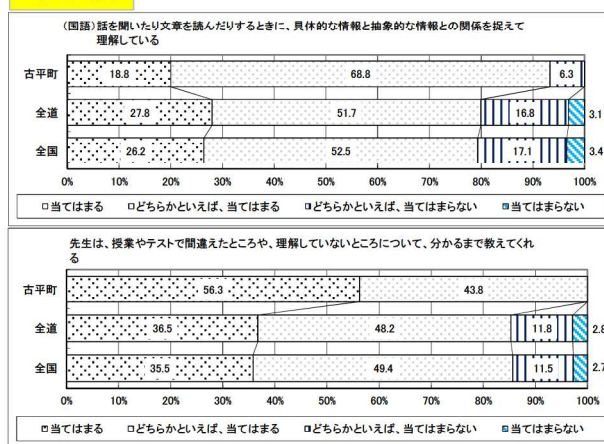


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、問題が解けたとき、別の解き方を考えようとする指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、算数の勉強は好きと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「変化と関係」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解させる指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、数学の「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【古平町の学力向上策】

- ◎ 加配教員を中心とした、児童生徒の課題の整理、共有及び授業や放課後指導方法の改善・充実
- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成及び授業改善の推進
- ◎ ICTを最大限に活用し、場面の視覚化や言葉の置き換え等を行いながら、未定着の学習内容について理解を深める取組の実施

【Webページ】



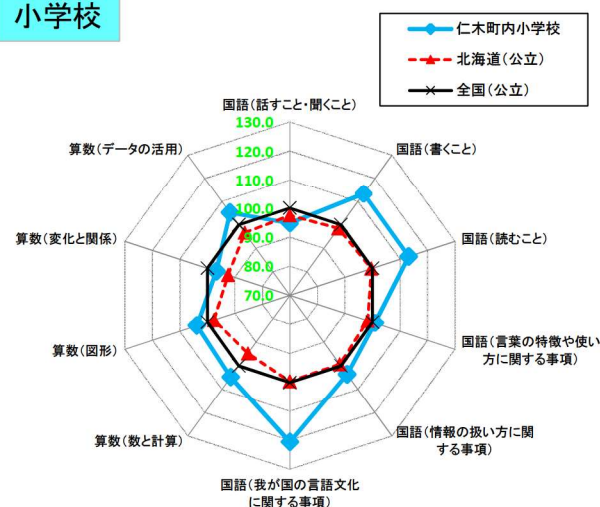
(R.16掲載予定)

■仁木町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:2校、生徒数:30人）

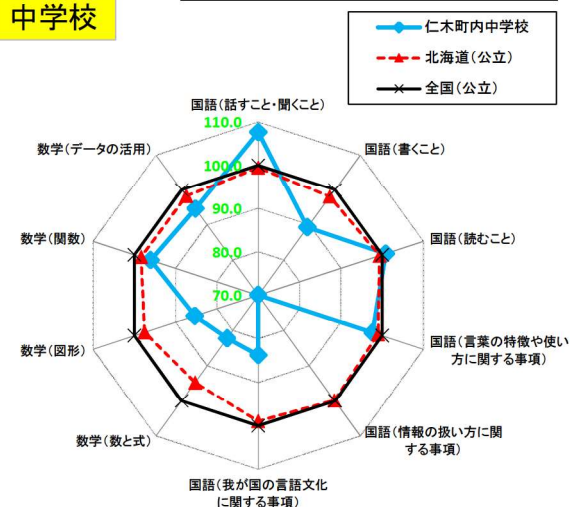
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



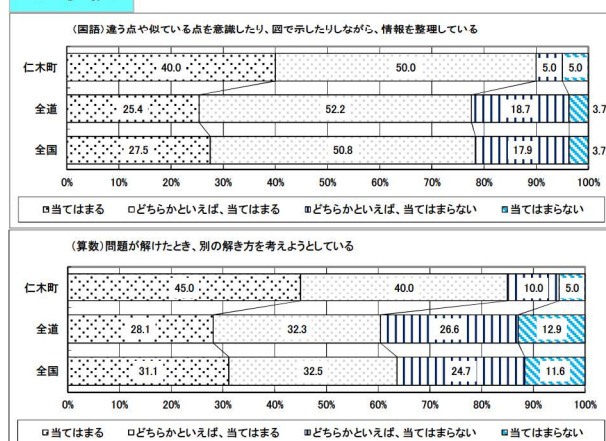
中学校



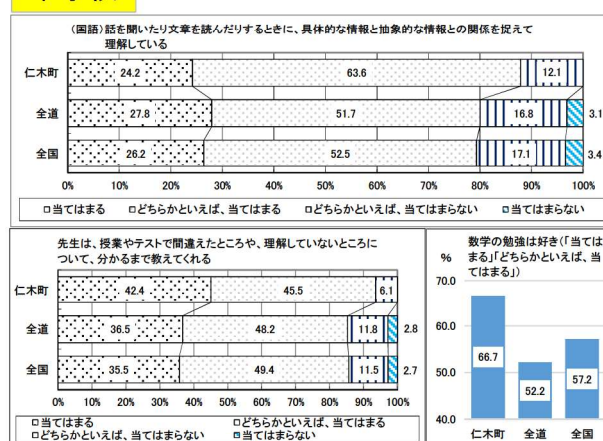
平均正答率	小学校	中学校
国語	72	55
算数・数学	65	47

【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理させる活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」「読むこと」の領域及び全ての事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、問題が解けたとき、別の解き方を考えさせる指導を行ったことにより、学習内容が定着し、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉える指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、数学の勉強は好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【仁木町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の学力向上や適応指導の充実を目的とした学校力向上支援員の配置
- ◎ 外国語指導助手（ALT）の活用
- ◎ 教育的配慮が必要な児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かな指導を目的とした特別支援教育支援員の配置

【Webページ】



（R6.11掲載予定）

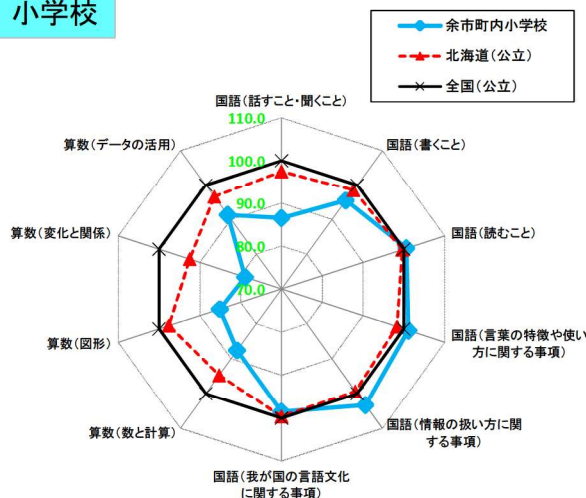
■余市町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:98人）（中学校数:3校、生徒数:102人）

【教科全体の状況】

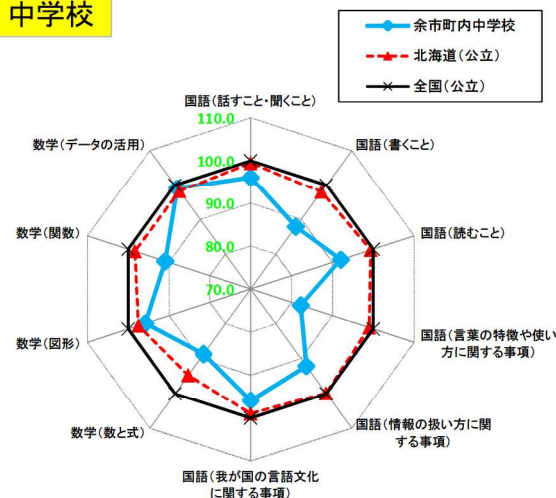
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	53
算数・数学	55	49

小学校

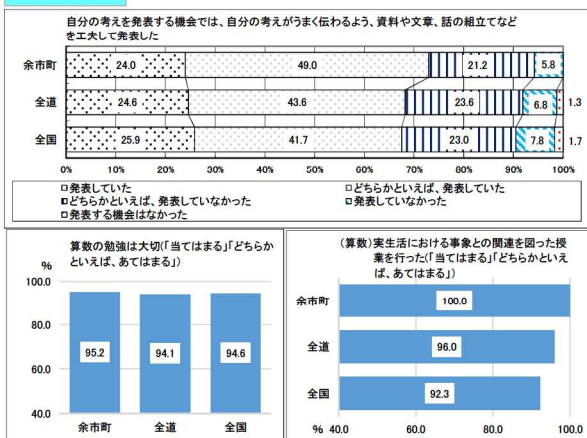


中学校

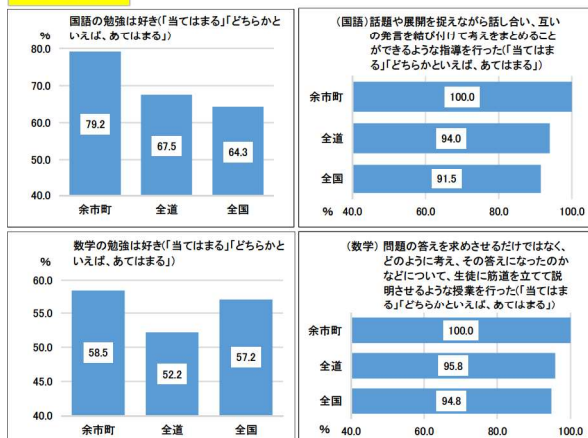


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、国語科の授業改善に関わる研修会を定期的に開催するとともに、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の勉強は大切と肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の勉強は好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の勉強は好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【余市町の学力向上策】

- ◎ 地域全体の学力向上に向けた全小・中学校の参加による「新しいかたちの学び授業力向上推進事業」（道教委事業）定例報告会の実施
- ◎ ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学習活動や、学習意欲、思考力、判断力、課題解決力を育成する教育の展開
- ◎ 外国人指導助手を活用した生きた英語による児童生徒のコミュニケーション能力と国際感覚の養成

【Webページ】



（R6.11掲載予定）

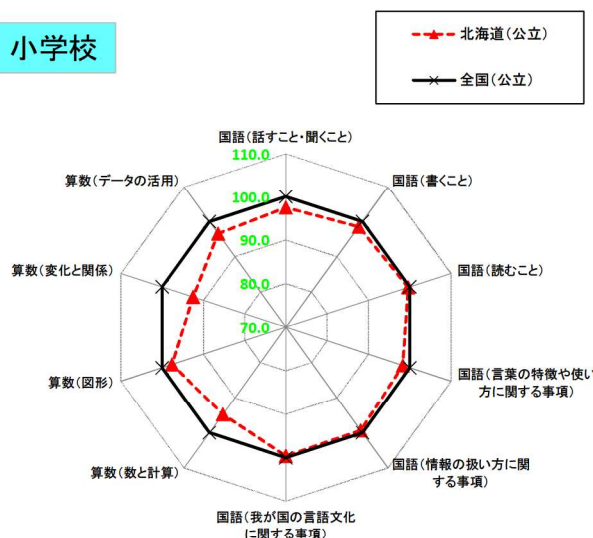
■赤井川村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:4人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

※児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小学校の教科調査及び児童質問調査のデータは掲載していない。

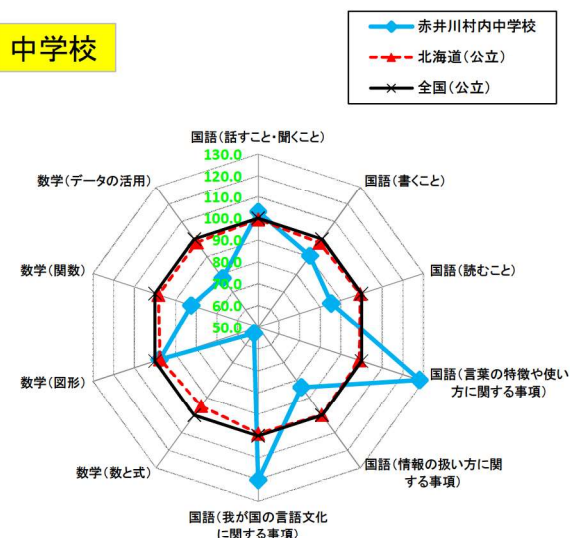
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

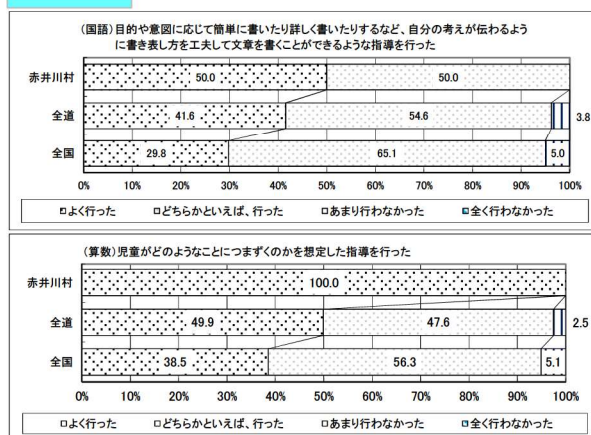


中学校

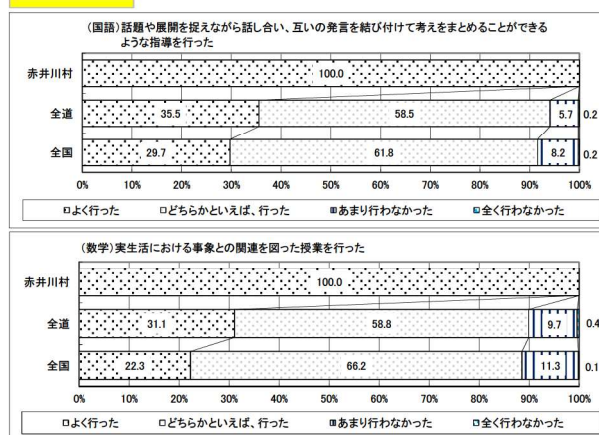


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。 算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

中学校
国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。 数学の授業において、実生活における事象との関連を図った指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【赤井川村の学力向上策】

- ◎ 学校運営協議会を通した学習の目的と方法を地域・保護者と共有することによる開かれた教育課程の推進
- ◎ 小中連携推進委員会を通した村内小・中学校の学習規律や学習過程の統一
- ◎ 1人1台端末を活用した分かる授業づくりの推進